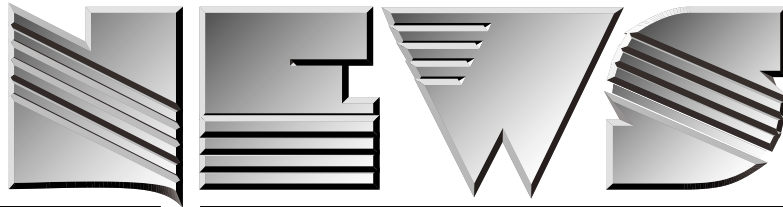




ふなばし
ねこ
の
会



号外

vol.19

Neko-Dasuke <http://www.nekodasuke.net>

NPO ねこだすけ 〒160-0015 東京都新宿区大京町5-15-203 Tel.&Fax.03-3350-6440

地域ねこ活動 講座やセミナー の効果

何度も繰り返
し聞かれます。
「餌やり禁止命令

で野良ねこが減る。」という理論には、野良
ねこ迷惑被害をなくしたい願望が根深く込めら
れているだけで効果はないというのです。

人々は暮らしの中からねこの餌となるものを必ず
生み出しているのです。ねこが人の環境に棲みつきます。
その現実を多くの人々が認めたくない歴史が続いま
した。人の暮らしの中で、例え誰かがペットフード
を置かなくても、既に野良ねこの餌になるものを差
し出している現実を、ねこの迷惑被害を訴える立場
からは思いたくないのも道理です。

先日「増え過ぎた野良ねこ」がテーマのテレビ番
組がありました。果たして野良ねこが本当に増え過
ぎているのかどうかの検証は番組からは分かり
ません。室内飼育が普及しても、野良ねこが増え続
けているのかは疑問ですが、迷惑苦情はなくなりま
せん。番組は野良ねこに餌をやるので生態循環が起
るという前提条件の下で、餌やりが「悪」か「善」
かの紛糾をテーマに構成していました。

セミナーや講座の際には、今までは一般的と思わ
れていた中にすら、大きな思い違
いが含まれていたことなどを知ら
されます。

例えば、餌やり禁止では野良ね
こ問題の根本的な解決が困難な理
由なども解説されます。

人々の暮らす環境にしか棲めな
くなっているイエねこを「環境動



セミナーのゲスト講師には「地域猫のすすめ」著者、黒澤泰氏も。



地域ねこの解説(上・ねこだすけ)。なぜ地
域ねこ対策なのかを訴える、セミナー主催者
(右・ふなばし地域ねこ活動代表清水さん)

物」ともいえます。例え餌やりがあってもなくても、
健康を冒されながらも人の暮らす環境に寄り添っ
て棲み続けますし、餌やりのなくなった歴史も見
られません。

野良ねこの生態循環を思う時、見逃されているも
っとも大きな課題は、繁殖機能を持ったままのねこ
が売買され流通されている現実です。ねこ種によっ
てはあえて繁殖を推奨される場合もあり、動物取扱
い事業者などに重宝に利用されます。海外ではペッ
トの繁殖制限手術を規則にした条例もあります。

「野良ねこが増え過ぎて困る」のは目に見える二
次的な現象と思えます。増え過ぎるのなら、何故増
えるのか?の一義的な原因を探ります。ペットの売
買は簡単ですし、ねこの健康を守る動物病院も沢山
あります。しかし生態学や人と動物や環境との関係
などと動物の一生の飼養などについて、厳しくき
つい条件を付けてねこの譲り渡しを行えるのは、ま
だまだ一部の人々やボランティアに限られています。

世間ではねこも犬もペットとして役割を持たされ
ます。役目を終え、見捨てられ、望まれないで産ま
れるペットのねこたちが、野良ねこの道を歩まされ
て生態循環をはじめるのは簡単です。

野良ねこ苦情の中で最大なものに見逃されるのは、
「近くに野良ねこが棲む」というねこ好きさん
からの訴えです。「野良ねこに餌をあげて叱ら
れた。」方からのご相談がなくなりません。そ
の場所での野良ねこ対策をだれかが進めないと、
迷惑被害苦情が沸き上がり、またまた「餌やり
禁止」をいわれそうですが、野良ねこは生態循
環を続けていつまでもいなくなりません。



ひと味違う、 東京新宿区の 地域ねこ対策。

新宿区内の地域ねこ対策を、区役所と一緒に協働の形式で数年に渡りすすめました。「地域ねこ100箇所あれば100通り」ともいわれますが、ここの対策の考え方には際立った特徴がうかがえます。

野良ねこ問題は、ねこの棲む狭い範囲の地域環境保全問題。

環境動物の野良ねこは、人の暮らしに関わる環境に棲む。

ペットから野良ねこを出すべからず。

人と動物との関係づくりや、外来生物と環境保全などを真剣に考えて真摯に受け止める努力をする。

野良ねこ問題は人道の問題ともつながり、人と人との関係づくりがポイント。

法令や制度の威圧的な執行ではなく、個人の自治的な意識でねこ問題の解決をはかる。

区内の野良ねこ苦情も、全国の各地と同じに大きく2つに分かれます。ひとつめは古くから続く野良ねこ迷惑被害の苦情です。

この区の特徴は、好き嫌いで判断されて隠れてしまいがちな2つめの苦情を積極的に取り上げます。野良ねこが棲むので心をいためるねこ好きからの思いも苦情と同列にとらえて丁寧に検証します。

ねこに余計な手出しは無用などの根深い考えと、ねこが棲むのでお世話も必要とする思いがお互いにかみ合いません。そこに生まれた妙案は、野良ねこ大迷惑側とねこも命ある愛護動物側との仲介役の登場です。

役所には区民にいいたくても、はっきりいってしまうと少々不味いこともあります。一方で区民が役所にいいたいことでも、ちっとも通じないことがあります。そのような時に、両方に公平で中立に思える仲介役がいると便利です。

ほとんどの町内や団地には世話役さんがいます。野良ねこの習性や生態に詳しい仲介役のボランティアと世話役さんが手を結んで、野良ねこ迷惑側とねこのお世話側の橋渡しをします。

「餌をやるからねこが棲む」などの観念と、「ねこが棲むから餌もいる」などの双方の思いをつきつめるとき、仲介役の判断は「お互いに協力し合ってねこの生態を支配しませんか？」になりました。

野良ねこがテリトリーにする狭い範囲を単位にして、その中で生態の繰り返しを支配できるとき、迷惑苦情はなくなります。その範囲にはペットのねこもいるでしょうから、ペットからこれ以上の野良ねこの発生も防げます。

新宿区は「人と猫との調和のとれたまちづくり連絡協議会」を設置しました。(下の写真)区内で地域ねこ対策をすすめる多数の区域から、さまざまなご意見のそれぞれの方々が会の構成員になっています。地区の問題を住民の自治的な意識の合意のもとで解決しようとする試みです。

野良ねこを捕獲して手術の後に返還する活動を、地区の住民が主体となって行い易くする工夫もされています。区の不妊去勢手術費助成申請の同じ窓口から、地域ねこ対策に限って使える捕獲の用具も区民に貸出されます。区と交わした覚え書きに従い、ねこだすけが区に預けているトラップケージも40台になりました。貸出しや返却の万全の台数管理や、使用状態のお目付け役は区の役割分担です。

行事計画

地域ねこの出張懇談会 兵庫県宝塚市の「ラビスタ地域の動物と暮らす会」に6月21日(土)、ねこだすけ代表が出張します。

飼い主のいない猫対策セミナー 世田谷保健所主催。7月12日(土)祖師谷まちづくり出張所で第8回めの開催。チームSLPとねこだすけが講師で出席。

愛知サマーセミナー実行委員会が多彩な分野のセミナーを開催。ねこだすけ支部のすみだ地域ねこの会が出張講師で地域ねこを講演。7月21日予定

